

入学案内

「仙台・羅須地人協会」が目指す「新しい学校」は、「3・11 東日本大震災」の様々な体験、その痛ましい犠牲の上に、近代工業化社会の科学技術文明の転換を目指してスタートします。今や近代社会の政治も、経済も、すでに歴史的限界を迎え、特に日本を始め先進諸国の生活も文化も混迷を極め、歴史的展望を喪失しています。こうした閉塞状況を打開し、人類の新たな展望を大胆に切り開かねばなりません。

近代工業化社会が要請した、近代的な労働力商品 = 賃金労働の再生産のための学校教育もまた、制度的な疲労を露呈しています。近代的な労働力のための義務教育、そして大学などの高等教育も行き詰まりを示し、特に日本では終身雇用制の崩壊により、「義務教育 入試のための進学教育 一流企業への終身雇用」のエスカレーターは、今や運転不能、機能麻痺の状況に近づいています。6・3・3・4 制の学制そのものが問われ始め、何のための大学進学か？その根本が問われています。大学を卒業しても、不安定な非正規雇用にさらされ、さらに個人請負、ニート、フリーターなど、産業予備軍入りの現実が待ちかまえています。

かつてウィリアム・モリスは、ロンドンのテムズ川の河畔・ハマスミスの地で、職人学校「ハマスミス社会主義協会」を開いて、「共同体主義」の自由な教育を試みました。さらに宮澤賢治も、花巻の北上川・「イギリス海岸」のほとりに、農民学校「羅須地人協会」を実践しました。我々の目指す学校は、彼らの志を受け継ぐものです。それは、官僚国家の上からの強制的な義務教育でもなく、終身雇用のサラリーマン生活を目指すものでもありません。賢治が自ら花巻農学校の教師を辞し、地域の人材を「地人」として育成するために命を賭けたその姿勢を現代に再現し、まさに新しく自由で開かれた学校を創造するものです。

皆様のご協力とご参加を、心より期待します。

学校の特色

- (1) 教える側（教師）と教えられる側（生徒）を固定せず、相互に教えあう「共育」を理念とする。
- (2) 生涯に開かれた教育として、卒業や学年制が無く、自由に受講し、必要なことだけを学ぶ。
- (3) 特定のキャンパスを持たず、地域全体が教室であり、災害現場にも開講する開かれた学校を目指す。
- (4) 入学と同時に「仙台・羅須地人協会」の会員として登録される。
- (5) 「仙台・羅須地人協会」のホームページなどを利用し、インターネットを活用した交流をはかる。